

かしま

HOT HOT 通信

12月号 Vol.347

令和3年(2021年)12月1日発行

■編集/かしま病院広報企画室
 ■発行/社団法人養生会
 〒971-8143
 福島県いわき市鹿島町下蔵持字中沢目22-1
 tel.0246-58-8010(代) fax.0246-58-8088

ご意見・ご感想は...

上記住所へ郵便、またはE-mailでお送り下さい。
 かしま病院広報企画室(江坂 宛)まで
 r-esaka@kashima.jp

ホームページ <https://www.kashima.jp>

かしま病院

検索



スマートフォンをご利用の方は、
 QRコードを読み取り、アクセスしてください。
 PCサイトと同じ内容がご覧頂けます。



1 巻頭特集

2021年12月24日(金)で
 喫茶室が閉店します。

2 皆さんの
 禁煙チャレンジを応援します!

3 コラム ひんがら目(174)
 『ポストコロナ社会が
 監視社会にならないよう、祈っています』
 呼吸器科 部長 山根 喜男

4 ようこそ家庭医療へ!
 リハビリPOST
 インフルエンザ予防接種
 受付終了のお知らせ
 かしま荘通信



年末年始の診療日等について



かしま病院外来棟の年末年始の診療について、
 下記の通りご案内いたします。

令和3年 12月			令和4年 1月			
29日 水	30日 木	31日 金	1日 土	2日 日	3日 月	4日 火
診療	休診	休診	休診	休診	休診	診療



休診期間中は、**送迎バスも運休**しており
 ますので、ご注意ください。



巻頭特集

2021年12月24日(金)で 喫茶室が閉店します。

— 当院の喫茶室で働くことになった経緯や、昔の喫茶室について教えてください。

菅野 この喫茶室で働くようになったのは、今から丁度30年前です。当時は、鹿島地区に住んでいながら植田まで通勤していたので、これからも長く働くなら自宅から近いところが良いなと思っていました。そんな時に、かしま病院で喫茶室の人員を募集していることを知ったのがきっかけです。その後、無事に喫茶室で働くことが決まったのは良かったのですが、それまで働いていた婦人服



平成17年移転当時の店内



菅野 茂子さん

●好きな言葉●
 『朝夕の食事はうまからずとも
 ほめて食うべし。』
 伊達政宗の名言です。

2 につづく

専門店の仕事とは全く違う内容だったので、慣れるまでは大変だったことを覚えています。

私が働き始めた当時は、喫茶室は職員食堂の一角にありまして。それから十数年間その場所で営業していましたが、病院の設備を新しくするための工事が入るということで、喫茶室の場所を移転することになりました。平成15年から一年半ほどの休止期間を経て、平成17年に現在の場所に新装開店しました。

今までの大きな出来事としては、東日本大震災が思い当たります。震災直後は営業もままならない状況だったので、しばらく休業するしかありませんでした。状況が落ち着いてから営業を再開しましたが、お客様が減ってしまい苦しい状況でした。それと、震災前までは私とスタッフ一人の2名体制で運営していましたが、震災後からは私一人で運営することになりました。今は水曜日だけお手伝いに来てもらっていますが、食材の仕入れから仕込み、調理、配膳、後片付けまで基本的に一人でやっています。



2021年12月24日に、院内の喫茶室が閉店することになりました。当院の喫茶室は、1985年のリハビリテーション棟が竣工した頃に営業を開始したので、約36年の歴史に幕を下ろすことになりました。そこで、現在喫茶室を一人で運営している菅野茂子さんに詳しい話をお聞きしました。

——閉店を決めたきっかけをお聞かせください。

菅野 閉店を決めた理由はいくつかありますが、大きくは二つです。一つは、私が喫茶室で働くようになってから今年で丁度30年という節目の年だったこと。もう一つは、自分自身が健康であると思える時期に引退したいと常々考えていました。もちろん他にも色々な理由があるのですが、体がしつかり動くうちにはじめをつけたかったですし、節目の年ということもあり、今が一番いい引き際なのではないかと思ひ、営業終了を申し出ました。

——この喫茶室の良いところはありますか？

菅野 誰もいない静かで無機質な場所で飲むコーヒーと、少し雑然としていても人の動きと呼吸が感じられる場所で飲むコーヒーでは、それぞれの良さがあると思います。この喫茶室は後者の雰囲気を感じることが出来る場所なので、食事に来るだけでなく、話を聞いてほしくて来る人もたくさんいました。私自身も、この喫茶室は病院の中でありながら、いろいろな会話の中から人情を感じることが出来る貴重な場所だと思っています。機械化が進んで無人の休憩所が増えている中で、病院の喫茶室も閉店するところとなり、時代の流れと寂しさを感じています。

——喫茶店の仕事を通して得たことはありますか？

菅野 私は、人は生きる環境によってどんどん変わると思っています。喫茶室といっても、街中や学校の中など色々な場所にあります。が、病院の喫茶室では、外来の患者様が食べに来ることがあります。最近あの患者様が来なくなっただなと思っていたら、お亡くなりになっていたということもありました。普通の職場で働くよりも、人の生死に近い場所にある喫茶室なので、元気な人でもいつ居なくなるかわからない、ということには強く感じるようになりました。ですので、限られた時間を大切に使うかと思っていますし、人に優しく接することが出来るようになったかと思ひます。こんな風に考えることが出来るようになったのは、この病院の喫茶室で働いてきたからだと思ひます。この場所で共に成長させていただきました。

——広報紙を読んでいる皆さんへメッセージをお願いします。

菅野 30年間喫茶室を運営してきました。楽しかった、という気持ちが一番大きいです。今まで辛いこともあったとは思いますが、思い返すと毎日楽しく仕事ができたという気持ちしかありません。居心地のいい職場でしたし、かしま病院の皆さんや患者様に支えられながら、とても濃い30年を過ごせたと感じています。いろいろな人が喫茶室に来てくれて話ができて、仕

事を通して私自身も大人になれたと思います。今までありがとうございました。

——菅野さんに、喫茶室を運営してきた30年間について振り返っていただきました。喫茶室とともに歩んできた30年間は、とても濃厚だったことが伺えました。本当にお疲れさまでした。今まで喫茶室から元氣と温かさを提供していただき、本当にありがとうございました。



日替わりランチ「ピーマンの肉詰め」

とてもさっぱりしているながらも味が染み込んでいて、今までにないおいしさでした。菅野さんに聞いてみると、フライパンで焼く方法だと脂っこくなってしまったため、下味をつけたひき肉をピーマンに詰めて、電子レンジで調理しているとのことでした。油を使わないです、電子レンジでひき肉の余分な脂が落ちて、とてもさっぱりするのだそうです。

Message

喫茶室を利用している方々からメッセージをいただきました。

診療部
渡辺 修

コロナ禍の日常に、喫茶室の店仕舞いという残念な情報が入ってきました。毎日の昼食と出勤日の土曜日にお世話になっていました。和食中心に洋食系まで幅広く、すべてが大変美味しかったです。私は特に麺類が好きでした。日替わり定食も多種多様で、栄養面のバランスも良く毎日ペロリと平らげていました。昨年まで長く肝臓専門外来で週末に新潟から来ていた石原清先生も大ファンで、昼食を楽しみにしていました。この度30年の区切りで決断されたとのこと。まだまだお元気ですので、今後も新天地でご活躍されることを祈っております。ごちそうさまでした。

看護部
大橋 修

入職後、喫茶室が現在のSPD室にある頃からお世話になりました。その当時、食欲がなく食べられない時にメニューにない物を作っていたが、仕事の活力になった記憶が残っています。日替わり定食は、バランスのとれた食事になっていて、いつもおいしくいただくことができました。菅野さんとの何気ない会話で、休憩時間に癒していただいたように思います。菅野さん、長い間お世話になりました。

一般の
利用者様

お疲れさまでした。私は職員ではないのに、バランスの取れた美味しいランチの常連としてお世話になり、ありがとうございました。「行ってらっしゃい！」と明るく送り出してくださる菅野さんにいつも元氣をもらっていました。ウーパールーパーの飼育も教えていただきましたね。寂しくなりますが、これからは大いに羽ばたいてください。

ようこそ 家庭医療へ!

～ いわきに生きる家庭医療育成への挑戦 ～

第142回 かしま病院の使命 ②

“患者、家族、地域をまるごと診る” 診療部 石井 敦



当院で管理中の在宅患者数は 200～300 名ですが、核家族や独居を含む高齢者のみの世帯が増えた現代では、介護のマンパワー不足から自宅でのケアの継続が困難となり、介護施設に入所されるケースが多いため、個人宅よりも施設への訪問の比率が高くなっています。

病院ではなく住み慣れた環境での自然な看取りを希望されるケースが多いため、ご意向に沿ったケアが実現するように、施設のケアスタッフや家族に対するデスエデュケーション（死の準備教育）を積極的に提供しています。結果として終末期の不要な救急搬送が回避できるケースが増えています。

担当医のみに負担が集中しないように、他科医師を含む 10 名弱の常勤医と支援看護師 3 名が協力し、更に地域の開業医の先生方にも協力していただき、地域の在宅医療を 24 時間 356 日切れ目なく効率よく提供するグループ診療体制を整えています。

このように、かしま病院は地域多機能型病院として理想的な地域包括ケア実現のため地域医療連携を強化し、ミッションである“めんどろみの良い病院”の責務を果たすべく、職員一丸となって取り組んでいます。高次医療機関での急性期の専門的治療を終えた患者を早期に積極的に受け入れ、その後の回復期リハビリ、退院調整、退院後の訪問診療、病状によっては在宅での看取りまで、

多職種と協働しながらシームレスなケアを提供します。

診療所からの紹介患者に対しても、急性期治療にあたるだけでなく、その後の慢性的な医学的介入や介護・福祉へ繋ぐ介入を含む包括的な調整を支援します。

これまでの我が国の臓器別専門医の育成に偏重した医学教育が招いた需給の歪みを是正し、超高齢社会において円滑に医療を提供するためには、総合診療医の育成は不可欠です。福島県立医科大学 地域・家庭医療学講座の後期研修協力施設として、2008 年度からのべ 10 名以上の専攻医を受け入れ、その大半が家庭医療専門医・指導医の資格を取得しています。2008 年からは医学生生の臨床実習、2013 年からは初期研修医の臨床研修を受け入れ、学習者からは「大学では経験できない日常病を中心とした診療ができた」「総合診療を体験できた」「外来から在宅・看取りまで連続的に体験できた」「チーム医療を体験できた」などの感想が寄せられています。

質が保証された大学プログラムで患者、家族、地域をまるごと診る技能を培い、総合診療マインド溢れる多職種スタッフと研鑽し合える環境です。

かしま病院では、2008 年度から家庭医を志す研修医や地域医療実習を行う医学生を受け入れています。このコラムを担当する医師の石井敦は日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医として、研修医・医学生の指導を行っています。



スポーツ傷害とは?

スポーツ外傷とは、大きな力を受けて突発的に発症するケガのことで、脱臼や骨折、靭帯損傷などがこれにあたります。他の選手との衝突、着地の失敗、急な方向転換など骨や筋肉、靭帯などに明らかな力が加わって発症するものと、加齢による変化や久しぶりの運動、準備運動の不十分さなど明らかな力が加わらずに発症するものがあります。この場合には専門医による診療が必要になることがあります。

みなさんは「スポーツ傷害」という言葉をご存知でしょうか? スポーツ傷害とはスポーツ活動によって発生するケガ全般のことで、スポーツでのケガの種類はたくさんありますが、スポーツ傷害は「スポーツ外傷」と「スポーツ障害」の 2 つに大別されます。

スポーツ障害とは、スポーツ動作の繰り返しによって身体の一部の部位が酷使されることによる小さな損傷が積み重なって慢性的に生じるケガのことで、疲労骨折や腱鞘炎などがこれにあたります。競技種目特有の動作で使いすぎることによる特定の部位のケガが多く、野球肩やテニス肘など競技の名前がケガの名前に含まれるものもあります。スポーツ障害の症状は、軽度の場合は運動中の痛みや違和感が主ですが、重度になると日常生活に支障が出る場合もあります。こちら専門医の診療が必要になることはありますが、障害の発生を予測して対応すれば、症状の軽減にもつながります。

自分の関心があるスポーツにはどのようなスポーツ傷害が多いのかなどを調べてみると、ケガをしないためにはどのようなことに注意すればいいのかなどが分かると思います。それが、より安全に楽しくスポーツに励むための一歩になるかもしれません。

理学療法士 木村 諒佑



かしま荘通信

車椅子を寄贈頂きました。 11/17(水)



11月17日(水) トヨタカローいわき株式会社様より車椅子 2 台をご寄贈頂きました。これは社員の皆様が社会貢献活動の一環として、アルミ缶やアルミホイール等資源回収活動により得られたものです。当日は、車椅子をお届け頂いた同社鹿島店 店長小野様へ当法人事務局長大森より感謝状をお送りしました。ありがとうございます。大切に使用させていただきます。

インフルエンザ 予防接種 受付終了のお知らせ

今年度のインフルエンザ予防接種の受付を終了しました。

かしま病院でも毎年行っているインフルエンザの予防接種ですが、今年度は申込数が定員に達したため受付を終了しました。

ご了承くださいませようお願い申し上げます。

